

## 2020 年度ゼミ (3003 演習 2A/3004 演習 2B) 要覧

担当者名	重富真一
演習テーマ	農業農村の開発問題
校外実習	1、実施しない 2、実施 (実施時期: 2018 年 8 月)
メール・アドレス	shigel103@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	春学期: 火 (昼休み、3 限)、金 (昼休み)。秋学期: 月 (昼休み)、金 (2 限、昼休み)
2021 年度に開講しない可能性 (在外研究・特別研究)	あり (特別研究のための休暇をとる可能性がある)
授業概要	春学期は、途上国の開発問題、農業農村問題について文献等を通して学びながら、タイ校外実習に向けて、予備調査と準備をおこなう。 秋学期は、社会科学方法論、論文執筆の方法について学ぶと同時に、自分が卒論で取り組みたい分野に関する文献レビューをする。
学習目標	1. 発展途上国の開発問題について基本的な知識を得る。 2. 論理的で明晰な文章を書く能力を養う。 3. 自分の漠然とした関心を、研究課題に具体化させていく訓練をする。
授業計画	春学期: 文献講読 (途上国の開発問題、農業・農村問題)、タイ校外実習の事前学習、各自の担当国の特定イシューについて調査をおこなう。学期末にミニ調査レポートを書く。夏休み中にタイでの校外実習をおこなう。 秋学期: 社会科学方法論の学習をおこなう。卒論で取り上げたいテーマについて、現在どのようなことが問題となっており、これまでの研究は何を明らかにしてきたのかを、レビューする。期末には関心分野のレビュー論文を書く。 なお日本国内農村地域での調査合宿を秋学期に計画している。
予習	課題文献を読んで、かならず「問い」を準備する。
復習	自分が書いた文章について指摘された点は自分で修正する。
授業に関する注意事項	ゼミは出席してこそ意味があるので、その点での規律を強く求める。
教科書	黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学: 途上国の暮らしを考える』有斐閣、アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ『貧乏人の経済学—もういちど貧困問題を根っこから考える』みすず書房、久米 郁男『原因を推論する -- 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、他。
参考書	未定
成績評価の基準	ゼミへの参加度 (報告と発言など) (60%)、学期末レポート (40%)。
関連 URL	なし
備考	なし